調布市
CHOFU

パラハートちょうふ 2024

つなげよう，ひろげよう，
共に生きるまち

このパンフレットには「音声コード」を添付しています。
専用装置やスマートフォン用アプリを使い読み取ることで、
ページに書かれている文章を音声で聞くことができます。

調布市　生活文化スポーツ部　福祉健康部

TEL　：042-481-7135（障害福祉課）

FAX　：042-481-4288

MAIL：syougai@city.chofu.lg.jp

登録番号（刊行物番号）2024-120

2024年12月発行

パラハートちょうふ

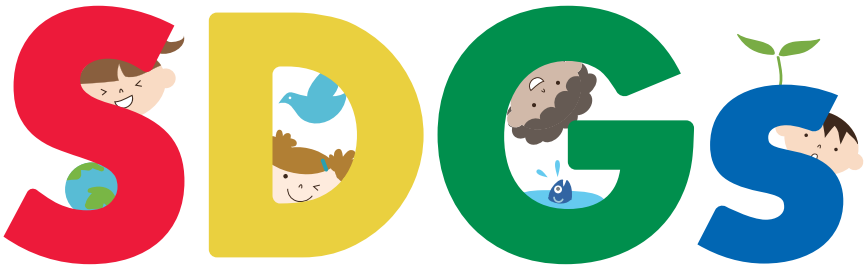
つなげよう，ひろげよう，共に生きるまち

2021 年に開催された東京 2020 大会の大会ビジョンには、「多様性と調和」という基本コンセプトが掲げられました。調布市は、大会開催を契機として、 共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため、「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズを掲げ、さまざまな分野で取組を展開しています。
このキャッチフレーズには、「市内外の多くの方がさまざまな障害に対する理解を深め、一人ひとりが寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる共生社会に」という想いが込められています。

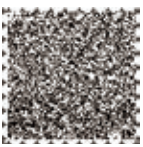
共生社会って？

「共生社会」とは

すべての人々が、障害の有無、国籍、性別などによって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会のことを言います。
2015 年に国連で定められた「SDGs：Sustainable Development Goals」（持続可能な開発目標）においても、「誰一人取り残されない」ことが原則として掲げられ、共生社会実現への取組が求められています。



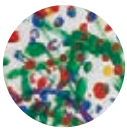
日本の法律では～障害者差別解消法～



障害の有無によって差別されることのない共生社会の実現を目的として制定され、2016 年 4 月に施行されました。障害を理由として異なる取扱いをする「不当な差別的扱い」の禁止や、障害のある人にとって社会に存在する障壁（バリア）を取り除くための「必要かつ合理的な配慮」の提供義務が規定されています。

取組の趣旨・背景

このキャッチフレーズを活用し、さまざまな取組をより印象的にわかりやすく、一体感を持って展開していくために、幅広く利用可能なロゴと、取り組みを象徴する"アートデザイン"を用いたPRを行っています。この"アートデザイン"は、東京2020大会に向けた機運醸成のために2019年7月24日に開催した「調布サマーフェスティバル2019」で、市内の福祉作業所メンバーとイベントに来場した子どもたちが、指や手に絵の具をつけて、一緒に楽しみながら制作したアート作品のデザインです。ぜひ、ロゴとアートデザインを活用して、取り組みを広げましょう。



調布市ホームページ
（「パラハートちょうふ」
ロゴ・アートデザインの取組）

アートデザイン制作の様子

「パラハートちょうふ」をひろげる

「パラハートちょうふ」を広めていくため市民や市内団体等と連携しながら、さまざまな分野で取組を進めました。今まで展開してきた主な取組をご紹介します。

多彩な装飾による普及啓発

ロゴとアートデザインを活用し、市庁舎玄関、エレベーターの装飾や、庁内カウンターへの卓上のぼり旗の掲出、市職員のストラップや市内福祉作業所で製作した缶バッジの着用など、さまざまな場面で装飾による普及啓発を行っています。

「パラハート月間」動画配信

調布市では「障害者月間」（12月3日から9日まで）を含む12月を「パラハート月間」として位置付けています。地域で生活する障害のある方の、市常生活の一場面を紹介する動画を制作しました。

動画はこちらから
ご覧いただけます。

市内の福祉作業所等での取組

福祉作業所などの障害児・者施設にもご協力いただき、施設利用者の送迎車両など 100 台以上の車が「パラハートちょうふ」のシートを貼って市内を走るとともに、各施設をのぼり旗が彩っています。

地域共生推進ふれあい商店等補助事業（バリアフリー補助事業）

市内の商店などを対象に、ハード・ソフト両面のバリアフリー化を進めるために行う改修工事や備品購入などの費用の一部を補助することで、共生社会の充実に向けた取組を推進しています。

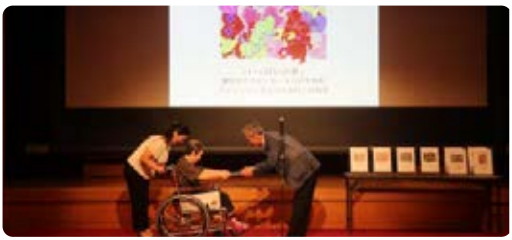
調布市障害者スポーツの振興における協議体

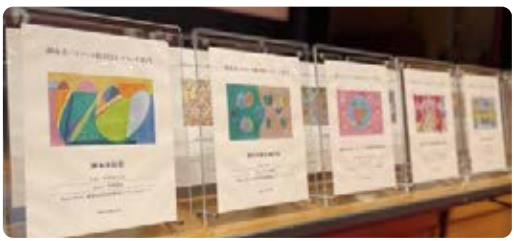
「障害者スポーツの振興」という目的のもと、東京都との連携により、スポーツ分野、福祉分野、医療分野の関係団体による協議体を設置し、各団体の現状や課題、障害者スポーツ振興のためにできること等を持ちより、連携の可能性を見出し、課題解決に向けた話し合いや障害当事者の運動機会創出・定着に向けた取組を行っています。

＜参加団体＞
（公社）調布市スポーツ協会、 調布市スポーツ推進委員会、（NPO 法人）調和 SHC 倶楽部、（社福）調布市社会福祉協議会、（社福）調布市社会福祉事業団、調布市福祉作業所等連絡会、（公社）東京都理学療法士協会、（公社）東京都障害者スポーツ協会、 東京都生活文化スポーツ局パラスポーツ課、 調布市スポーツ振興課・障害福祉課

パラハートちょうふ meets ART

文化芸術の振興による共生社会の充実に向けて、
多様な主体との連携により、多彩なアートとの出会いを
通じて“パラハートちょうふ”を広める取組を実施しています。





パラアート展

2017 年度から調布市福祉作業所等連絡会との共催で、各作業所等で活動されている方々の作品を展示する「パラアート展」を開催しています。パラアート展 2024 はテーマを設けずに自由に制作した作品を展示する「自由制作部門」と、ハートをテーマに作品を募集し、応募作品の中から調布ゆかりのスポーツ団体や企業が作品を選んで表彰する「アワード部門」の二部構成で開催しました。

パラハートちょうふ meets ART 特設サイトの開設

パラハートちょうふ meets ART の情報をわかりやすく発信するため、
誰でも参加できるイベント情報をまとめた特設サイトを開設しました。

調布よさこい × パラアート展

調布よさこいはパラアート展と同日開催しています。 例年行っている、パラアート展で作成した旗を使用する演出に加え、今年度は福祉作業所のみなさんが、オープニングに出演し、踊り手と一緒によさこいを踊りました。 おまつりのキャッチフレーズ「だれもが笑顔」のとおり、参加者も来場者も笑顔で楽しみました。

調布中学校８組（特別支援学級）ワークショップ

障害のある人とない人がともに自由な身体表現を行う、インクルーシブダンスワークショップ「のはら」をたづくりで開催しました。
来年度は、西洋子（にしひろこ）先生とともに、調布市グリーンホールを会場に連続ワークショップを企画しています。

調布メディアアートラボ
pook展 WAYPOINTS ～ふしぎの空路～

たづくり１階展示室では、誰でも気兼ねなくゆっくりと鑑賞できるように「だれでもウエルカム DAY」を開催しました。
また、会期中は障害のある方を対象に鑑賞補助ツールを貸し出し、多くの方がメディアアートを体験できるようにサポートしました。

「パラスポーツ」への取組

パラスポーツ体験会

日本車いすバスケットボール連盟などの各競技団体と連携して、プレーを見るだけではなく、競技を体験してもらうことで、パラスポーツの難しさや面白さを体験し、より身近に感じることを目的として実施しています。

東京都市町村ボッチャ大会

パラリンピックを契機として、2019 年度から多摩地域の市町村が連携してボッチャ大会を開催しています。市では 調和 SHC 倶楽部やスポーツ推進委員会と連携したボッチャ交流会を予選会と位置づけ、障害の有無に関わらず多くの人がボッチャを楽しみます。

FC東京あおぞらサッカースクール・交流会

FC 東京と連携し、主に知的・発達障害のある方を対象に定期的なサッカースクールを開催しているほか、他のチームとの交流会を開催しています。

車いすバスケットボール Chofu エキシビションマッチ in むさプラ

東京 2020 大会で武蔵野の森総合スポーツプラザが車いすバスケットボールの競技会場として使用されたことを契機として、日本車いすバスケットボール連盟と調布市、武蔵野の森総合スポーツプラザが連携し、トップチームによるエキシビションマッチや車いすバスケットボール体験を実施しています。

あすチャレ！スクール

日本財団パラスポーツサポートセンターが行う小・中・高・特別支援学校を対象とした体験型出前授業で、パラスポーツのデモンストレーション、体験、講話を通して「他者のことを自分ごとと考える力」「障がいへの理解」、「可能性に挑戦する勇気」、「夢や目標をもつ力」など共生社会への気づきや学びの機会を提供しています。

ブラインドサッカー® 体験授業
「体験型ダイバーシティ教育プログラム　スポ育®」

日本ブラインドサッカー協会によるブラインドサッカー体験授業「スポ育」は、ブラインドサッカー特有の視覚を遮断して行う体験型のプログラムで、小学生を対象に障害理解やコミュニケーションについて学ぶ機会となっています。

東京2025 デフリンピック

Q. デフリンピックって？

A. 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4 年に 1 度開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会で、国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った資格による情報保障が特徴です。
日本国内で初めて開催される今回のデフリンピックは、1924 年にフランスのパリで第 1 回大会が開催されてから 100 周年となる記念すべき大会です。

デフリンピックとは、 デフ＋オリンピックのこと。
デフ（Deaf）とは、 英語で「耳がきこえない」という意味です。
デフリンピックは国際的な「きこえない人のためのオリンピック」です。

TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS
東京 2025 デフリンピック大会エンブレム

大会概要

日程	2025 年 11 月 15 日～ 26 日（12 日間）
競技	21 競技（陸上、バドミントン、バスケットボールなど）
会場	都内 16 会場（サッカーは福島県、自転車は静岡県）
出場選手	70 ～ 80 か国・地域　約 3000 人

反則などの合図を知らせるランプ

スタートランプ

小・中学校へのデフアスリート出前授業

デフアスリートやデフスポーツ関係者による講話やデモンストレーション、競技体験をとおして、デフリンピックやデフスポーツ、デフアスリートに関する子どもたちの興味・関心を喚起し、親しみ応援する機運を醸成するとともに、聴覚障害や手話に関する理解促進に取り組んでいます。

デフバドミントン選手による PR 動画の制作

調布市内がバドミントンの競技会場になることから、ナショナルチームの矢ケ部紋可選手、沼倉昌明選手にご協力いただき、デフバドミントンやデフリンピックの PR につながる動画を制作し、市公式 YouTube チャンネルにて公開しています。

2024 年 9 月、調布市手話言語条例・調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例ができました。

調布市手話言語条例

独自の言語である手話に対する理解促進と普及を推進するための条例

調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

障害の特性に応じた多様な意思疎通（コミュニケーション）のための手段、配慮、支援等に対する理解促進と普及を推進するための条例

調布市はこれからも「パラハートちょうふ」をキャッチフレーズにさまざまな取り組みを行います。